

## 2015年度 IGB事業計画(案)

【2014年度総括】

2014年度は情報格差問題について広く知ってもらうことを狙い、事業はインパクトの大きいものを優先的に行った。(日本手話LINEスタンプ発行、文化庁芸術メディア祭、電話リレーサービス公的支援化など)

その結果、インフォメーションギャップバスターの知名度も上がり、facebookページの「いいね!」は1000人を越え、会員数も30名を突破するなど、NPOとしての活動の基盤ができていく。

また、定例会では、(1) 労働 (2) 生活 (3) 文化にフォーカスして取り組んだ。特に会員の要望の多い労働(職場での情報格差)については、継続した取り組みにより、会員の情報格差に対する知見やノウハウも蓄積してきている。また、発達障害者支援団体との連携により、発達障害者向けの情報リテラシー講座も開催するなど、ターゲットを広げてきている。

NP0運営体制としては、特定の人に集中している傾向が続いており、プロジェクトチーム体制の構築や後継者の育成などが課題になっている。

## 【2015年度事業方針】

今年度も(1)労働 (2)生活 (3)文化 における情報格差にフォーカスして、事業を進めていく。特に、チーム運営体制を構築し、実行していく。可能ならば、会員の方はそれぞれのチームに属してもらい、活動していただく。それぞれ3名以上いることが望ましい。必要に応じて兼務可とする。

◎TRS啓発チーム：

TRIS(電話リレーサービス)の啓発事業(日本財団助成あり)として、成果(啓発パンフレット、シンポジウム開催)を生み出していく。

◎定例会運営チーム：

定例会のテーマについては、時流を捉えて、情報格差に関するトレンドなテーマを取り上げていく。助成金を獲得し、情報保障料金を賄っていくことも検討する。

### ◎教育チ一ム：

過去に開催した情報リテラシー講座の内容をブラッシュアップして、継続した企画を行う。

◎広報チーム：

NP0活動や情報格差について、当事者以外の一般の方に十分に理解してもらえない状況があるため、Webサイト・団体紹介パンフなどを一般の方にわかりやすく伝わるものにしていく。

◎総務子一ム：

会費の効率的な収集方法の検討、助成金獲得などを行う。助成金候補としては、(1)Webサイトリニューアル、(2) 定例会開催費用(地方開催、情報保障費用)、(3) 教育実施費用を検討する。

## 【事業体制】

- ・TRS啓発チーム : 啓発パンフ企画・配布、啓発シンポジウム企画・実行 など
- ・定例会運営チーム : テーマ制定、講師・情報保障手配、会場手配、定例会運営、アンケート集計 など
- ・教育チーム : 情報リテラシー講座の企画、テキスト作成 など
- ・広報チーム : Webサイト・ソーシャルメディア運営(facebookなど)、メルマガ発行など
- ・総務チーム : 会費徴収、会員名簿作成、助成金申請 など

## 【その他の検討事項】

- ・美術館における情報保障の確立に向けた活動(継続：文化庁メディア芸術祭)
- ・独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が助成している手話通訳担当者の委嘱助成金の制限撤廃提言(継続)
- ・手話言語法、障害者差別解消法(差別禁止・合理的配慮)への提言(新規)

## 【ビジョン・ターゲット】

IGBのビジョン・スローガン・ターゲット・事業内容は以下の通り。

ビジョン：持続可能な情報社会の実現

スローガン：Beyond the Information Barrier(情報バリアを越えて)  
～誰もが情報を得ることのできる豊かな社会を創ろう～

ターゲット：全市民(障害の有無・年代・国籍など問わず)

情報弱者：情報リテラシーを向上し自立を促す

情報強者：情報格差問題を理解してもらい支援体制を打ち立てる

## 【事業内容】

### (1) 労働

- ・障害者雇用納付金制度に基づく情報保障のための各種助成金の制限緩和  
一現在、年間使用額の上限など各種制限があるため、緩和を陳情している。  
厚生労働省の担当者と継続して協議中。(進行中)
- ・障害者差別解消法にて提言されている合理的配慮の現場での適用方法を検討する。(進行中)

### (2) 生活

- ・電話リレーサービスの公的サポートの実現  
一日本財団が展開しているリレーサービス実験の啓発。(進行中)
- 一総務省に対する公的サポートの実現のための署名活動。(進行中)

### (3) 文化

- ・美術での情報保障体制の確立  
一美術館における音声ガイドのようなバリアを解消するための諸活動。(進行中)

## 【情報発信】

- ・Webサイト、facebook、Twitter、メルマガなどで行う。  
IGBの活動ニュース、情報格差に関するトピックスを情報発信する。使い分けは特にない。

## 【ご参考：設立の背景】

近年、インターネットのブロードバンド化が進み、ネット上の情報の氾濫に拍車がかかっている。その一方、教育機関における情報リテラシー(\*1)教育は不十分な状況であり現状に即した内容ではない。人間の情報処理プロセスは、情報の収集・分析・整理・発信などあらゆるアクション、また、情報を伝播するあらゆるメディアがあるが、情報リテラシー教育はその中のごく一部しか扱っていない。例えば、アクションは、情報の収集の仕方だけ、メディアは、インターネットだけ、または、図書館だけを扱ったりするなどの事例がある。

その結果、情報リテラシーの差が生じ、情報格差(\*2)の原因になっている。その情報格差は、富の差、健康の差、生活の豊かさの差などにつながっている。

そこで、情報弱者(\*3)に対して情報リテラシーを習得する機会や情報提供システムの提

供、また、情報強者(\*4)に対して情報格差問題の啓発を行う事に加えて、行政など関連団体への働きかけにより、情報格差の解消につなげる。

\*1：情報を扱うすべての行動能力のこと。行動には、検索・分析・取捨選択・読み書きなどがある。

インターネットに限定しない、日常生活のあらゆるコミュニケーションを含んだ総合的な能力。

\*2：情報を獲得しているかしていないかで生じる差のこと。

\*3：情報を十分に獲得することができないため、社会的に不利益を被る人のこと。

\*4：情報を十分に獲得し、利益を得る事で多くの人が富裕層に属している。